

# 募集中

詳しくは龍雲寺まで  
お早めにお申し込み下さい。

◆第二次 坂東三十三観音巡礼②  
満願の旅  
十月二十七日(月)～三十日(木)

◆無相教会花園流御詠歌会員募集  
九月 九日(火)・十月 九日(木)  
十一月十三日(木)・十二月二十五日(木)

男性・女性どちらでも可  
会費は無料、お弁当代六百円のみ。貸出用の御詠歌のお道具有り、見学自由、全員イス席で講習を受けます。自主練習(不定期)。男性もどうぞ。  
○他にも龍雲寺では囲碁の会・茶道部・法声会(長唄・三味線)・獅子舞・子ども会・かっぱれ・ヨーガ・ピラティス等があります。

◆早朝洗心坐禅会(申込不要)

毎週日曜日 朝六時半～八時半  
会費 無料  
坐禅用のイスもご用意しています。

◆写経会(申込不要)

毎月第二土曜日 一時～四時  
(但し、七月、八月はお休み)  
納経料は 一巻五〇〇円(龍雲寺に納経)  
来られない方は、お写経をお渡しいたしますのでご自宅でゆっくりお写経をどうぞ。  
イス席もご用意しています。



## ◆第十一回 天満敦子ヴァイオリン・コンサート

日時 十月四日(土) 午後三時～  
会費 三千五百円(当日集金)  
会場 龍雲寺本堂(椅子席)  
三時から整理券配布  
お申し込みはFAX/電話・お葉書で。定員になり次第締め切ります。お抹茶・虎屋さんのお菓子・笹寿司をご用意しております。

## 編集後記

○皆様お元気ですか? ○第四七回龍雲寺盆踊り大会は皆様のおかげで盛大に行われました。盆踊りと夏祭りを同じと考える方が多く思いました。○第九回妙心寺と五山送り火の旅は、昼食は大法院様で。大徳寺塔頭の瑞峯院・真珠庵・聚光院様特別拝観後、貴船の川床へ寒い位で半天を借りて、すき焼きを。一六日は法堂で管長様ご導師の法要へ。  
送り火の特別精進料理を食事中、携帯のエリア・メールが送信されましたが雨が止み送り火を拝めました。○一七日は団体参拝後、写経・写仏・念珠や器作りを花園会館で。連泊の会館で移動も少なく講習会や、お昼寝が出来、おやつもあり、承天閣美術館では若冲の名画や茶道具の名品鑑賞、新幹線車中での特別弁当等、又、来年も参加したいと皆様の声は、企画・引率の私にとって嬉しい事です。○お彼岸会の御萩の館は前日に大釜で薪で大納言を煮ます。高温でグツグツ煮え熱くて焦げないように煮詰めるのが大変です。お手伝いの沢山の方が、お皿や湯飲み等を洗って準備して下さいます。当日の朝五時に胡瓜を二〇〇本糠漬けにします。餅米は少量のお米を研いでいる方には、六百人分の餅米を洗うのは無理なので、お手伝いの方々が来て下さる前に一人で洗っています。○昔ながらの方法で古新聞を濡らしてちぎり箒で掃除をする。畳や廊下・階段が簡単に綺麗になります。○茶道具を中込様より沢山ご寄贈頂き展示に展示、他は茶道部で大切に使用させて頂きます。○山内一同おかげさまで元気にしています。お彼岸会でお目にかかれるのを楽しみにしています。お元気で。 要子

# 龍雲寺 花園会報

二〇一四年 秋彼岸号 監修/細川音輔 編集/細川要子

○妙心寺 URL <http://myoshin.com/>  
○龍雲寺 URL <http://home.catv.ne.jp/r/ryuunji/>

〒一五四―〇〇〇三 東京都世田谷区野沢三―三八―一  
TEL 〇三―三四二―一〇二三八  
FAX 〇三―三四一―八九六三

## 「あいさつ」

閑栖住職 細川景一

今年の夏は暑いだけではなく、今まで体験したことのない、まさに異常気象が日本を襲いました。秋に向かって何とか落ち着いてもらいたいものです。

中国宋代の禅僧五祖法演禪師(一一〇四)が弟子が入寺するに当たり「およそ、院に住す、己がために戒むるもの」として与えた四つの「戒」が法演の四戒として伝えられています。

- 勢い、使い尽くす可からず
- 福、受け尽くす可からず
- 規矩、行い尽くす可からず
- 好語、説き尽くす可からず

「勢い、もし使いつくさば、福必ず至る」絶好調の幸運時こそ、知らぬ間に破局の種が蒔かれているのです。用心!用心!です。

「福、もし受けつくさば、縁必ず孤なり」

といえます。私達が恵まれた幸せをほしのままにしたら、たちまち枯渇してしまいます。

辛抱!辛抱!

「規矩(手本・規律)、行い尽くさば、人、必ずこれを繁とす」知りつくしていて知らないふり、学びつくしていて学ばないふり、行いつくして何もしないふり

何事も謙虚に!

「好語、説きつくさば、人必ずこれを易んず」いかなる好語でも、微に入り細にわたって説きつくされると、その味わいは半減す。「過ぎたるは及ばざるが如し」

何事も遠慮深く!

私達の日常生活の中に思いたるところがあるはずです。ご安心!ご安心!

## 秋季彼岸会法要

平成二十六年九月二十三日(火)

於・龍雲寺本堂

正午 御詠歌奉詠  
午後十二時四十五分～法話  
午後一時 三十分～法要  
※お食事を用意しています。  
どうぞお参り下さい。申込不要。

## 行事予定

- 九月二十三日(火) 彼岸会
- 十月 四日(土) 第十一回天満敦子ヴァイオリンコンサート
- 十月 十五日(水)～十七日(金) 全国奉詠大会
- 十月二十七日(月)～三十日(木) 第二次坂東三十三観音巡礼②
- 十一月 十七日(月)～二十一日(金) 台湾三十三観音巡礼②
- 十二月中旬 龍雲寺子ども会 餅つき大会
- 十二月三十一日(水) 除夜の鐘
- 一月 七日(水) 大般若会



## 「おはぎ」と「ぼたもち」

まだ私が妙心寺の修行道場にいた時代の話です。「茶礼 夜船」と書かれた紙がありました。「茶礼」とは平たく言えば「おやつ」のことで、修行僧は滅多にない茶礼のお菓子をみんな楽しみにしていました。「夜船」って一体何が出てくるのだろう・・・とドキドキしていましたが、出て来てみると「おはぎ」に他なりません。「おはぎ」は漢字で書くところなるのかと当時は気にもとめませんでした。実は夏に出す「おはぎ」は「夜船」と呼ばれるそうです。おはぎはお餅とは異なり、べったんと杵で搗きませんので音がしません。その「搗きしらす」から「着きしらす」となり、夜は船が何時港に着いたかわからないことから、「夜船」となったそうです。ちなみに、冬は月知らずから「北窓」と言うとか。

恥ずかしながら私は今年の五月まで、春も秋も「おはぎ」だと思っていたのですが、本山での布教講習会で、春は「ぼたもち」、秋は「おはぎ」ということを知りました。春は牡丹に見立て、秋は萩の花に見立てたものようです。江戸時代の百科事典「倭漢三才図会」には「牡丹餅および萩の花は形、色をもってこれを名づく」とあり、この説がもっとも一般的だそうです。母に聞いたら、勿論知っていて「おはぎはぼたもちより気持ち小さく作るのよ」と言っていました。

龍雲寺で行う秋の彼岸会では、母をはじめお手伝いの方々が心を込めて1200個以上の「おはぎ」を作って下さいます。秋にしか味わえない「おはぎ」の味を楽しんで頂き、その後お参りして下されば幸いです。みなさまのお参りをお待ち申しあげております。(晋)

## 野沢稲荷神社のお祭り

今年も野沢稲荷神社の御神輿が龍雲寺にやってきました。

前日はお宮でビゴ大会などがあり、私もテッシーを頂きました。ありがとうございました。昔は御神輿の日になると、おじさん達が朝5時からいからお寺の台所ですっぽい塩にぎりを沢山作っていました。中には作り終わった頃に「これだけ作っていると、手がキレイになるな」と皆さんと笑っていました。私も35才ですから、あれから30年くらいたつんですね。

お寺と神社との組み合わせは不思議に思われるかも知れませんが、そもそも日本は八百万の神々が尊ばれていた世界でありました。そこに朝鮮半島から仏教が伝来してお互いに共存して、日本の仏教が作られて来たわけです。神仏混交・神仏習合とも言われますが、仏教と神道とが敵対せずに尊崇されているという日本らしい素晴らしいところですね。

だからこそ、お寺としても御神輿が来て下さると嬉しいし、お宮のお祭りにも参加する。これが日本の良さであり、守り続けていかなければと思っています。

地元の方はもちろん、若い方も沢山参加して頂いても盛大な御神輿でした。盆踊りが終わって、野沢稲荷の御神輿が終ると、いよいよ夏も終わり秋の足音が聞こえてきます。



(細川晋輔)



## 『十牛図』について

四、得牛(牛を得る)  
「荒牛を 引きゆく路や 花いばら」  
三の「見牛」のところで見つけた牛(本当の自分)を我が物にするために、寝たり食べたり働いたりというような日常生活の着衣喫飯に至るまで、努力精進して修行に励むところ。ここに、雪丸老師は「荒々しく厳しい中にも、どことなく茨の木に花がさいたようなすがすがしさがある」とおっしゃっています。  
やっとの思いで見つけた牛。しかし、見つけたことに油断しては再び牛を見失ってしまいます。牛を離さないためにも手綱を引き続けなければならぬ。努力精進し続けることは、とても大変なことかもしれません。しかしそのことは間違いない牛との、つまり本当の自分との絆になるはず。いつかは牛を自分のものとして飼いつづけていけると信じて、手綱を放さずに生きていく。この生き方にこそ、すがすがしさがあるのではないのでしょうか。(晋)



## 東京禅センター 科学と仏教の接点

臨済宗妙心寺派東京禅センターは、野沢龍雲寺会館内に設けられ、東京近郊の方々を対象に、臨済禅に接してもらうために活動しております。一般の方から寺院の住職まで様々な講座を開いております。大学との共催による公開講座等も開いておりますので気軽にご参加下さい。

### 科学と仏教の接点13

「宇宙を満たす不可思議の海、私たちは世界を正しく見ることができているのか」

- 【日程】平成26年10月11日(日)午後2時～5時
- 【講師】井元信之先生(大阪大学大学院教授)
- 【会場】佐々木閣先生(花園大学文学部仏教学科教授)
- 【会場】東京大学駒場キャンパス
- 【会費】無料

### 第4回 禅とキリスト教の出会い

- 〜現代の宗教間交流から見えてくる今〜
- 【日程】平成26年10月26日(日)午後2時～5時終了
- 【講師】リーゼンパー神父(上智大学名誉教授)
- 【会場】安永祖堂先生(花園大学文学部国際神学教授)
- 【会場】聖イグナチオ教会(JR四ツ谷駅徒歩1分)
- 【会費】無料

### 【申込方法】

事前予約制 住所・氏名(ふりがな)・電話番号・講座名を明記の上、メール zen@myoshin-zen-c.jp・ハガキ・FAXにてお申し込みください。

お問合せ先/東京禅センター  
FAX 03-5779-3801 MAIL zen@myoshin-zen-c.jp  
〒154-0003 東京都世田谷区野沢3-37-2 龍雲寺会館内

### 坐禅体験1

初心者向けの坐禅体験講座です。脚の組み方、呼吸の仕方等、坐禅の初歩から学べます。20分程度の坐禅を2〜3回座り、最後に茶礼(お茶とお菓子)を致します。

- 【日時】毎週水曜日 午後1時半～午後3時
- 【会場】龍雲寺会館ホール
- 【会費】500円

### ◆龍雲寺厚木墓地のご案内

開修寺墓苑内に龍雲寺檀徒用の墓地を造成しました。龍雲寺檀徒としてお付き合いをさせて頂きます。

- A (一五〇×一五〇) 永代使用料一・二五万円
- B (一五〇×一四〇) 永代使用料一・四万円
- ABとも納骨棺、塔婆立、拜石等の外構工事を含まれます。

このままで直ちに納骨できます。右記の額を直接お寺にお納め下さい。詳細につきましては龍雲寺まで。

### ◆納骨堂 (お遺骨一時預り 無料)

墓地をお持ちでない方や転勤の多い方、将来落ち着き先がわからない方たちが、ご不幸があつて慌てて墓地を買われないうちに、落ち着いて考える時間を持つて下さるようという考えで十数年前に納骨堂を本堂の裏側に建てました。いつもお参りの方がいらしています。

### ◆NPO 東日本大震災復興支援 『浜ばっぱのぞうきん』

※龍雲寺にて浜ばっぱのぞうきんを置いてあります。 一組四〇〇円